

できることを

いわぬまにしちゅうがくこう
岩沼西中学校二年

よしおか
吉岡

あやの
彩乃

今年、七月、熊本県を中心に九州や中部地方など日本各地で、令和二年七月豪雨が発生しました。これまでに経験したことのないほどの大雨となり、一時七県に大雨警報が出されたり、球磨川や筑後川などの氾濫や土砂災害が起きたりするなど、大きな被害をもたらしました。鹿児島県の鹿屋市では、五日から六日にかけての二日間の最大一時間降水量は百九・五ミリを観測し、住家被害は一万八千三百八十棟、死者及び行方不明者は八十六人にもなりました。もとの形が分からないほどめっちゃくちゃになっただ街。一面海のようなって、必死に何かにしかがみっいて助けを求め、人々の姿。連日テレビや新聞で報道される悲惨な様子を見て、私は胸が痛くなりました。毎年のようにくり返されるこの痛ましい状況を、変えるために自分には何かできることがあるのかと考えました。そこで、日本の土砂災

害に関することを調べてみました。

日本は、世界的に見ても特に自然災害が多い国といえるそうです。というのも、日本は急峻な山地や谷地、崖地が多い上に、地震や火山活動も活発であるなどの国土条件に、台風や豪雨、豪雪に見舞われやすいという気象条件が加わっています。そのため、土石流、地すべり、かけ崩れなどの土砂災害が起きやすいのだそうです。特に、都市化など近年の土地利用の変化と相まって、土砂災害による

犠牲者は自然災害による犠牲者の中で大きな割合を占めているとのことでした。また、日本に限らず近年世界中での地球温暖化が進んでおり、それによる気温の上昇で台風がより発達しやすくなっているという点も災害が多い原因の一つです。つまり、いろいろな条件が重なっている日本は災害が起こりやすいといえます。

では、そんな国で暮らしていく上で、災害に備えるために私たちにできることは何でし

よ
うか。私が思い浮かんだことは、土砂災害
ハザードマップを確認することです。土砂災
害ハザードマップとは、それをれの市区町村
が作成しているマップのことで、土砂災害警
戒区域などの位置や避難場所、避難経路など
に関する情報が記載されています。私は今ま
であまり注意して見たことはなかっただけ
が、今回調べてみて、自分の住んでいる地域
のハザードマップを確認すると安心だと思
いました。また、日頃から身のまわりをよく
見て危険なところを確認しておくことも大事
だと思えます。いつも通っている道端で安全
だと思っ、ていても、よく見ると傾いていたり、
崩れかけていたりするなど、土砂災害が起き
る前兆が見られることがあります。普段から
確かめる習慣をつけておくと良いと思います。
そしてこれらは、一時的に行っても効果は薄
いのです。気象状況や年月が経つことで変化し
ていくものなので、定期的に確認することが
大切です。このように二つ紹介しましたが、

これらはほんの一例にすぎません。他にも私
たちにできることはあります。それを考える
ことから防災は始まるのだと思います。

私たちの力では気象状況は変えることがで
きません。ですが、災害に備えるためにでき
ることはあります。いつ来るかわからない災
害に備えるために、今できることから始めた
いです。